

JAL × 北海道大学病院 連携研修
客室乗務員向け「妊婦のハイレベルケア in 羽田」

“そのとき”に備える！～キャビンでの妊婦対応シミュレーション

北海道大学と日本航空株式会社（JAL）は、「サステナブルな社会創り」をテーマとした連携協定にもとづき、協業の一環として11月19日（水）、北海道大学病院が羽田空港にて、全国そして世界を飛び回るJAL客室乗務員26名を対象に、連携研修「妊婦のハイレベルケア」を実施しました。大学病院の医療スタッフが航空会社の客室乗務員に対し、妊婦への対応に特化した研修を行うのは、当院としても初めての取り組みです。

研修では、当院産科・周産母子センターの馬詰武准教授が講師を務め、妊婦の体調変化に気づくための視点や、急変時に求められる初期対応を体系的に解説しました。さらに、病院スタッフが専門的な処置や体位管理などの実演、妊婦役や同乗者役を務め、受講者とともにシミュレーション形式で状況を体験し、現場で即応できる実践力の習得をめざしました。

【研修概要】

1. 北海道大学病院産科医による専門講義

- ・妊婦の腹痛の見分け方
- ・効率的な既往症・合併症の聴取方法
- ・医療従事者へのドクターコールの適切なタイミングなど

2. 実践的なシミュレーション訓練

- ・妊婦の低血圧（脳貧血）発症時の体位管理
- ・物品準備、医療者のサポートなど
- ・緊急時の分娩介助



※ 本研修は、客室乗務員が機内で行える「非医療的サポート」の習得を目的としており、医療行為を促すものではありません。

【北海道大学スタッフ、JAL スタッフ】



日々の安全運航を支える現場に触れ、航空の「命を預かる」責任と、医療が担う「命を守る」責任が重なり合っていることを、強く感じる機会となりました。

今回の研修は、北海道大学病院と JAL が「安全と安心を社会に届けたい」という共通の思いを形にしたものです。

大学病院の専門知が現場の安全向上につながることで、両者のブランド価値はさらに高まります。今後もこうした協働を通じて、医療の力を社会へ、より広く、確かな形で届けてまいります。

【本院の連携研修参加メンバー】

■ 北海道大学病院

○ 医療スタッフ

- ・ 馬詰 武 准教授、周産母子センター副部長
- ・ 玉城 良 産科・周産母子センター 医員
- ・ 長内 ちづる 産科・助産師
- ・ 四栗 香織 産科・助産師

○ 事務スタッフ

- ・ 駒井 孝博 経営企画課課長補佐
- ・ 山下 俊輔 総務課主任
- ・ 山本 健太 総務課職員
- ・ 廣瀬 文香 総務課職員
- ・ 勝浦 奈緒 経営企画課職員

■ 大学本部

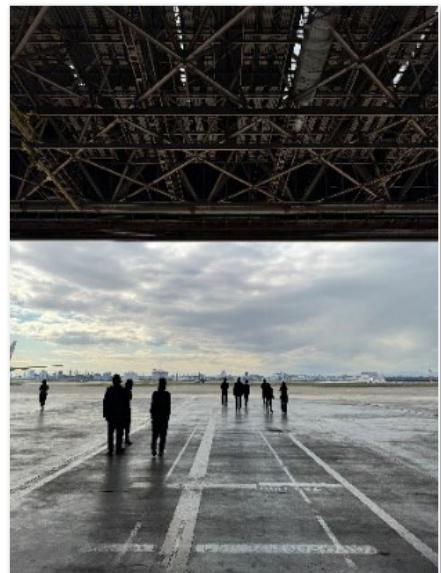
- ・ 辻 賢司 社会共創部長
- ・ 吉良 葵 社会・地域創発本部 産学連携研究員
- ・ 斎藤 夢乃 社会連携課職員 (JAL 出向職員)

【整備場見学】

巨大な航空機が並ぶ格納庫では、床一面に整然と並ぶ点検器具や、何十項目にも及ぶチェックリストを前に、航空の安全を支える圧倒的な緻密さを実感しました。普段は決して見ることのできない角度から機体を眺めることで、航空の世界がどれだけ“見えない努力”的に成り立っているかが伝わってきます。

その徹底した安全文化は、日々医療安全に取り組む病院の姿勢とも通じるものがあり、双方が「命を守る」という同じ使命を担っていることを改めて感じさせる光景でした。

格納庫の大きさに圧倒



普段、見ることのできない角度で機体を見学



JAL の遊び心「幸せの黄色いコンテナ」
空港スタッフでも普段めったに見る事の
できないコンテナ



【あとがき・事務スタッフ所感】

今回の取組は、医療スタッフだけでなく、大学本部のサポート、そして病院事務スタッフの運営協力が重なり合って実現した、まさに“北大らしい連携チーム”的な取り組みでした。事務スタッフは会場準備や進行補助に加え、シミュレーションでは同乗者役として参加し、目の前で繰り広げられる医療スタッフの真剣な動きに、日頃の業務では得られない緊張感と迫力を肌で感じることができました。

「命を守る最前線」で働く医療者の姿勢に触れたことは、事務スタッフにとって大きな刺激となり、「北大病院として社会に価値を届ける」という使命への理解と意識が、いつも以上に強く胸に刻まれました。医療・事務・大学本部が同じ方向を向いて取り組んだことで、部署を越えた連携の力も改めて実感し、病院運営全体にとっても大きな収穫となりました。

さらに今回、JALという国内有数の大企業のブランド力を借りながら、北大病院の専門性を社会に発信できたことは、広報戦略の観点でも貴重な経験でした。自院だけでは届けきれない価値を、パートナーとの協働を通じて社会へ広げていくことの重要性を再認識する機会となりました。

研修を通して、北大病院の知が社会の安全へと確かに結びついていく様子を目の当たりにし、「この取り組みをもっと広げたい」という前向きな思いが職員の間に自然と芽生えました。今回の経験は、北大病院がこれから社会とつながり続けるうえで、大きな一歩となったように感じています。

